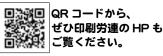
年 FEDERATION OF PRINTING INFOMATION MEDIA 中和元年 (2019) 12月12日 WORKERS UNIONS (INSATSU ROREN) 中間情報メディア産業労働

NETWORK

印刷情報メディア産業労働組合連合会 〒 105-0014 東京都港区芝 2-20-12 友愛会館 16F TEL. 03-5442-0191 FAX. 03-5442-0219 http://www.pimw.jp/

●発行人 佐藤久恒

●編集人 藤原隆之



連合印刷労運労働相談ダイヤル 03-5442-0191

2019 年度 各専門委員会の取り組み

2019 ~ 2020 年度運動方針を具現化・実現するため、各専門委員会の取り組みをご紹介します。

各専門委員会を通じ、構成組織の皆様に様々なご提案をしますが、積極的なご協力とご理解をお願いします。

產業政策委員会 (委員長: 宍戸 良太/委員: 佐藤 正治·山野内 孝満·藤井 雅之)

印刷情報メディア産業は、事業構造の変化により、従来からの紙媒体からデジタル化や高機能化にシフトし、AIやIoTによるソリューション&アウトソーシング分野への参入など、業種の枠を超えた事業への転換が求められており、事業領域の拡大や構造改革が必要となっています。また、印刷情報メディア産業の企業構造は、そのほとんどが中小企業で成り立っており、中小企業の持続可能性と発展が無ければ産業の未来は開けません。

こうした中にあって、魅力ある印刷情報メディア産業の構築に向け「産業政策」を明確にし、産業に集う全労働者の雇用と労働諸条件の維持・向上、ならびに生活の質の向上を目指して運動を推進していきます。具体的には、「印刷労連・産業政策」を実現するべく、推薦議員との連携による国政・行政への反映、業界団体への働きかけ、連合本部における「政策・制度要求」への反映に向けて取り組んで参ります。

委員一丸となって取り組んでいきますので、各地方協議会ならびに構成組織のご協力とご支援をお願いいたします。

労働条件委員会 (委員長: 大窄新二/委員: 高橋康・中村信也・村田茂陽)



労働条件委員会は今年度より委員が一新し、更に発展するため活動を展開していきたいと考えております。

労働環境が大きく変わり、それに伴い、生活の在り方も見つめなおす転換期が訪れた中、我々労働者の地位や水準の見つめ方も転換しなければなりません。賃金や一時金の観点や労働諸条件の点検と維持向上、更に働き方や休み方の改革、働くもの全てが安心して働き、安定した生活を送れるよう、労働条件委員会から様々な発信をしたいと考えております。

また、働き方改革関連法をはじめとする様々な労働法関連が随時施行、 改定されている中、関連する専門委員会とも連携し、印刷労連が掲げた運動方針実現のため取り組みを進めてまいります。

組織委員会 (委員長:吉岡貞治/委員:川尻聡・嵯峨友成・石山浩司)



2019 年度組織委員会の取り組みについては、運動方針に則り「組織の 充実・強化・拡大」を柱に、魅力と求心力のある印刷労連を目指し、活動を展開していきます。とりわけ、労働組合における組織率の回復が見られない中、組織拡大は必要不可欠であり重要な課題でもあります。

よって、今日まで積み上げてきた「組織拡大推進計画」を精査した上で、本部および地方協議会、構成組織それぞれと連携を図りつつ組織拡大に向けた目標設定を行い、取り組みを推進していきます。

【目標設定】

- ・「組織拡大推進計画」の精査と拡大施策の具現化
- ・グループ関連企業における未組織労働者の組織化
- ・60 歳超の雇用労働者の組織化
- 非正規雇用労働者の組織化
- ・印刷関連企業における労働組合との連携

教育·広報委員会 (委員長: 勝又 紀智/委員: 古賀 初代·太上 隆史·藤原 隆之)



教育・広報委員会は、人財の育成と労働運動の継承や情報の共有化、提供に取り組んでいきます。具体的には①各種教育の実施とフォローアップ②地方協議会に主眼を置いた「労使運営マニュアル」を用いた教育を実施③人財育成と労働運動継承のための教育活動の実施④『NETWO RK』と『ホームページ』を通じての情報提供などに引き続き努めていきます。

教育面では、『教育体系』を用いた『各種マニュアル』にて教育に取り組んでおります。また、昨年に引き続き、中央執行委員および中央委員を中心とした教育や、ブロック会議ならびに地協幹事会などでの研修会を実施していきます。さらに、構成組織が利用できるよう、印刷労連としての教育体系の充実を図っていきます。

情報提供については、『NETWORK』や『ホームページ』を媒体として情報の共有化に努め、NETWORKの定期的発行とホームページを閲覧した組合員へ有益な情報を提供できるよう取り組みを進めていきます。

印刷労連本部・各地方協議会の活動が身近に感じられ、活動に対して理解が深まる活動となるよう取り組んでいきたいと考えております。

総務・財政委員会 (委員長:中村彰男/委員:水落 圭吾·福内誠)



私たちは今、デジタル化による産業構造の変革や、働き方改革など、様々な環境変化に直面しており、これまで以上に、国や産業の垣根を超えた連携強化、環境変化への対応力が求められていると思います。

印刷労連は、諸先輩方のご尽力、構成組織の皆さんに支えられて30周年という節目の年を迎えることができました。次の時代に向けて、総務財政委員会の今期のミッションは「①時代の変化・法改正の動向を見据えた規約全体の見直し」・「②本部および地方協議会における適正な予算配分と財政処理」・「③労働者福祉の向上」といった観点から、印刷労連構成組織が「ワンチーム」となって、印刷労連活動の更なる充実、組織の強化・拡大に取り組んでいくための基盤整備をすることであると考えています。よろしくお願い致します。

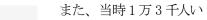
平和行動 in 根室参加報告

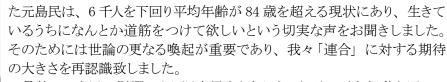
「平和行動 in 根室」は、昨年、北海道胆振東部地震により中止となりましたが、今年は、9月7日から無事開催され、印刷労連からは6組織13名が参加してまいりました。

「北方四島学習会」および「2019 平和ノサップ集会」に参加し、行政・元島民・有識者の皆さんから、北方領土問題の現状と今後の課題、北方四島の未来像など、様々な観点からお話を伺うことができました。

特に、9月5日に開催された日ロ首脳会談については、テレビ報道では "進展なし"という印象を受けておりましたが、首脳同士では、両国の立場 を確認しながら、未来志向の議論が進行しているという解説がありました。







最終日は台風の影響により深夜帰宅となりましたが、平和行動を通じて得られた知見、北海道の食・大自然など貴重な経験をさせて頂いたことに感謝するとともに、一日も早い北方領土問題の解決と世界平和を願っております。





UNI 世界印刷・パッケージング部会大会 参加報告

2019年10月18日~24日にかけ、場所はスペイン・トレドにて第5回UNI世界印刷・パッケージング部会大会が開催され、印刷労連からは山野内、吉岡の2名で参加して参りました。そこで印刷労連として、報告した内容を掲載したいと思います。

【以下報告内容】

日本の印刷業界におきましては、IT化の進展に伴う情報媒体のデジタルシフトの影響により、ペーパーメディアの需要は減少し、原材料価格の値上がりや競争激化による単価下落など、依然として厳しい経営環境が続き





ました。また、2015年の国連総会において採択された「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」の達成に向け、企業の積極的な参加が期待されております。

そうした中、私たち印刷労連の活動については、日本の他業界同様に労使パートナーシップをベースに、いかにしてこのような環境下においても、従業員の雇用の維持、労働条件の維持向上をしていけるか、企業側との議論を深めています。

具体的には、大手印刷企業は印刷技術をベースとした多角化が進み、従業員の配置転換が長年において続いており、雇用を確保するための教育研修などの労働条件を労使議論で充実させてきています。

また、コアな印刷、出版の事業においては、競争激化が進む中、価格競争はもちろんですが、受注から納品までの期間



がどんどん短くなり、どの工程においても労働負荷が高まっており、印刷業界の 労働者にとって、過重労働となる商習慣が続いています。

健康被害や若い労働者がこの業界を敬遠する原因ともなっています。このような悪い商習慣を改善すべく、印刷労連では、企業の経営者団体への働きかけや、印刷労連自身の政策制度提言をこれからまとめ上げ、連合を通じて、国会議員や政府への働きかけをしていくことを、新年度の運動方針の中核に掲げ取り組んでいく所存です。

そして、この目的を達成するために、国内外の UNI のネットワークを通じての情報交換をとても大切に考えています。

【報告者 山野内 孝満】

アジア連帯委員会 (CSA) 36 次救援衣類を送る運動

印刷労連は社会貢献活動の一環として、今年度もアジア連帯委員会(CSA) 救援衣類を送る運動を9月17日~9月25日の募集期間を設けて取り組んでまいりました。

コクヨ労働組合、フォームズユニオン、フォームズユニオン西日本、リーブルテック労働組合、高桑美術印刷労働組合よりご協力いただき、今年は34箱約・250kgの衣類が集まりました。

ご提供いただきました各構成組織の組合員の皆さまに感謝を申し上げます。 また、海外輸送募金として 70,000 円を連帯基金から拠出いたしました。

<アジア連帯委員会(CSA)って?>

貧困や多くの問題を抱えるアジアの人々を支援し、交流活動を通じて、連帯を深めているNGO(非政府組織)です。

現在、タイ、ラオス を中心に福祉活動として「救援衣類をおくる運動」、教育支援として「小学校建設・補修」、「高校生支援事業」を行い、恵まれない人々を支え、それらの国の健全な経済社会開発に貢献する努力をしています。

構成は、労働団体、市民組織、企業など CSA の趣旨にご賛同いただいている組織 や個人の方々、そして日本在住の難民で構成される「日本在住ベトナム人協会」、「在 ラオス協会」です。 CSA の活動は、日本労働組合総連合会の「連合・愛のカンパ」や 全国各地の大勢の皆様から寄せられる「善意の募金」により支えられて活動しています。





UNI Apro 東アジア労組フォーラム 参加報告

第8回 UNI Apro 東アジア労組フォーラムは、2019年10月16~17日、韓国・ソウルの Kwanghawmoon 郵便局国際会議場において開催されました。日本、韓国、台湾、モンゴルより156人(うち女性45人、女性参加率29%)が出席しました。日本からは9組織41人(うち女性14人、女性参加率34%)が参加、印刷労連からは宍戸中央書記長とともに2名で参加しました。香港は民主主義を求めるデモの影響で出席できませんでしたが、今回初めてモンゴルが参加しました。

「UNI Apro 東アジア労組フォーラム」は、日本、韓国、台湾、香港、モンゴルの UNI に集うサービス産業の労働組合が、東アジア地域の様々な課題を打開するための議論や意見交換を通じ、連帯・友情・相互理解を更に深め、協力の枠組みを確立することを目的に開催され、韓国・ソウルでの開



催は第5回以来となります。このフォーラムの継続的な開催により、UNI Apro 東アジア地域の結束は確実に強まっているといえます。

「労働の未来、決めるのは私たち」というスローガンの下、「各国の政治、経済、社会、労働事情の報告」、「労働時間短縮とワークライフバランス」、「プラットフォーム労働者及び IT 部門の組織化」、「ジェンダー平等」というテーマで、各国の取組みを共有しました。

各構成組織からはテーマに沿ったトピックが報告され、各国の間で情報共有と取り組みへの共感を得ることができました。 そして、各国の労働者の課題は多くの共通部分が有り、特に世界的なデジタルシフトの拡大に伴い、その影響を最も受ける事になる労働者に対する適切な対応が必要だと強調されました。また、特別講演では、デジタル化のマイナス影響を最小化し、ビジネスの発展と雇用維持・創出を両立する。そのためには、経済・労働政策の一貫性が必要であり、会社の発展に寄与するはずの労働者の賃下げや人員削減がないよう交渉していかなければならないとされました。この問題は、日本と共有する課題でもあり、早急に解決しなくてはならないと感じました。

最後にフォーラムのまとめとして共同宣言が採択され終了しました。第9回フォーラムは、2020年、台湾・台北で開催する予定です。



UNI Apro東アジア労組フォーラムを通じ、労働者の問題を共有したことで、課題には私たち日本に近いものがありました。また、今後の労働運動の発展に参考になったこともあり、このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝申し上げ、報告といたします。

【報告者 勝又 紀智】

働くを支える 暮らしに備える 生活を豊かに

~印刷労連☆~

☆こくみん共済 coop

☆労働金庫





— 編集後記

4

ラグビーワールドカップが、日本代表の活躍もあり、大盛況のうちに幕を閉じました。大会期間中は、世界のトッププレイヤーの素晴らしいプレーに酔いしれ、また『ONE TEAM』『ジャッカル』『にわかファン』など、今年の「新語・流行語大賞」に5つもノミネートされるなど、社会現象にもなりました。その中で、ファンを熱くしたプレーの一つは、体格差で劣る日本代表が、

一体となって大きな相手をスクラムで押し勝つところではな かったでしょうか。

我々、印刷労連も、本号で掲載しました各専門委員会などの活動を展開し、しっかりと準備し、作戦を練り、集う単組が一体となってスクラムを組んで、印刷産業の発展を目指し共に頑張ってまいりましょう!! 【教育・広報委員会 藤原 隆之】

NETWORK NO.201